

重井小中学校と因北小中学校の学校再編に係る
因北中学校区地域説明会（第1回）議事録

- 1 日 時 令和6年10月9日（水） 19:00～20:15
 2 場 所 因北小学校 体育館
 3 参集者 地域住民 13人
 4 説明者 宮本教育長、中濱教育総務部長、小柳学校教育部長
 榎原因島瀬戸田地域教育課長、安保学校経営企画課長、金子教育指導課長
 小田因島瀬戸田地域教育課地域教育係長、宮崎学校経営企画課企画振興係長（司会）

5 進 行

担 当	内 容
司会者	<p>（19:00 開会）</p> <p>本日はお集まりいただきましてありがとうございます。これから重井小中学校と因北小中学校の学校再編について、2中学校区の学校再編（案）を説明いたします。挨拶・説明・重井小中学校の保護者・重井中学校区地域での説明会で出た意見の紹介に約50分、質疑に約1時間10分いただき、概ね2時間を考えております。よろしく願いいたします。はじめに、教育長よりご挨拶申し上げます。</p>
宮本教育長	<p>（教育長挨拶）</p> <p>皆様、こんばんは。教育長の宮本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。説明会の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は、昼間のお仕事等で大変お疲れのところ、第1回因北中学校区地域説明会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>このたびの学校再編につきましては、今後、重井小学校では複式学級が、重井中学校では小規模化が見込まれることから、昨年、令和5年12月以降、重井小中学校の保護者の皆様、地域の皆様と教育委員会とで、意見交換会を行ってまいりました。また、因北小中学校のPTA役員の皆様、因北地域の区長会長の皆様に、学校再編の取組について説明をさせていただきました。それらの中で、皆様からいただきましたご意見も踏まえ、教育委員会として、学校再編の方向性等を慎重に検討してまいりました。</p> <p>その上で、8月21日に議員の説明会、そして、その日の夜に重井小中学校保護者説明会を開催するとともに、9月18日に、重井地区の地域説明会を、9月27日に因北小中学校の保護者説明会を開催しまして、これまでに意見交換会等を経て、教育委員会として検討して参りました、学校再編の方向性等につきまして、説明をさせていただいたところでございます。</p>

	<p>本日は、先日行いました、因北小中学校保護者説明会と同じ内容の説明をさせていただきたいと思っております。</p> <p>重井小中学校も因北小中学校も歴史と伝統があり、いずれも素晴らしい学校でございます。</p> <p>歴代の校長先生方をはじめ、教職員の皆様、そして、子どもたち、学校を支えてくださっている保護者・地域の皆様が、これまで大切に築き上げてこられました、学校文化や伝統を大切にしながら、学校再編の方向性や教育の中身等を考える必要があると、私は考えております。</p> <p>そして、これからの時代を生きていく子どもたちの未来のために、保護者の皆様、地域の皆様、学校の先生方、そして、私たち教育委員会で力を合わせまして、皆様が誇りに思っていただけ因島らしい、新しい学びを創造していきたい、そのように強く思っているところでございます。</p> <p>それではこれから、教育委員会といたしまして検討してきました、学校再編の方向性、教育の中身、施設等につきまして、ご説明を申し上げます。その後、皆様から、ご意見やご質問をいただきまして、それについてお答えしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上、開会にあたっての挨拶といたします。</p>
事務局	<p>はじめに資料の確認をさせていただきます。1点目は、本日のレジュメになります。2点目はスライドを印刷した冊子になっております。3点目は、資料1～資料5をまとめたものになっております。それでは、説明をさせていただきます。</p>
安保学校経営企画課長	<p>(事務局からの説明)</p> <p>1 重井小中学校と因北小中学校の学校再編について</p> <p>本日は、因北中学校区地域説明会にお越しいただき、ありがとうございます。これから、子どもたちの未来を拓く、小中一貫教育校による新たな学びの創造と題して、重井小中学校と因北小中学校の学校再編について、説明をさせていただきます。</p> <p>本日提案します再編後の学校は、「子どもたちが元気に明るく学校に通い、切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校」、「保護者・地域から愛され、誇りに思える学校」を目指し、重井小中学校と因北小中学校の教育資源を最大限生かした、新たな学びを創造していきたいと考えております。</p> <p>本日の説明はスライドにありますように、大きく3点。1点目、重井小中学校と因北小中学校の学校再編について、2点目、小中一貫教育校</p>

について、教育内容、小中一貫教育校の施設、通学路の安全対策と通学対策について、3点目、今後のスケジュール案について、の順で説明いたします。

まず、尾道市教育委員会の学校再編の考え方について、説明させていただきます。尾道市立小・中学校再編計画を平成23年12月に策定し、子どもたちの安全安心の確保はもとより、教育環境の充実を目指し、適正な学校規模の確保を基本として、小中学校の学校再編を進めてまいりました。

適正な学校規模の確保として、複式学級の早期解消、1学年複数学級化の推進、学校施設の耐震化の推進として、耐震化工事対象校の精査、耐震化率100%の早期実現、尾道15年教育の推進として、1中学校区における1小学校及び認定こども園の配置を推進です。

この再編計画のもと、平成23年度以降の統合では、平成25年4月、南小学校、東生口小学校、瀬戸田小学校を再編し瀬戸田小学校に、平成25年4月、生口中学校、瀬戸田中学校を再編し瀬戸田中学校に、平成27年4月、土生小学校、田熊小学校、三庄小学校を再編し因島南小学校に、平成29年4月、木頃小学校、木ノ庄西小学校、木ノ庄東小学校、原田小学校を再編し、美木原小学校になっております。

資料1、資料2をご覧ください。

資料1は①重井小学校、②因北小学校、③2小学校を合わせた場合の児童数の推移、資料2は①重井中学校、②因北小学校、③2中学校を合わせた場合の生徒数の推移です。

重井小中学校の状況を見ますと、今後、重井小学校は毎年複式学級が生じ、重井中学校は全校生徒数の減少による小規模化という状況が見込まれます。教育委員会では、児童生徒が切磋琢磨できる適正規模の教育環境を充実するという観点から、学校再編を進める必要があると考え、令和5年12月から保護者・地域の方との意見交換会を実施してまいりました。

意見交換会で出された意見は後ほど紹介しますが、教育委員会として今後の重井小中学校の在り方について、検討を重ねた結果は次のとおりです。

令和9年度、重井小学校と因北小学校は因北小学校に、同じく令和9年度、重井中学校と因北中学校は因北中学校に、学校再編します。そして令和9年度の学校再編と同時に、小中一貫教育校へ移行することを目指します。

現在の重井小学校4年生は重井小学校卒業後、因北中学校へ進学することとなります。また、重井小学校1年生から3年生は再編後の因北小

学校の4年生から6年生となります。

それでは、今回の方向性に至ったこれまでの重井中学校区での取組状況についてです。

令和5年12月から、重井小中学校の保護者、地域の皆様と意見交換会を始め、4月20日からは、今後の方向性（案）を配布資料として提示し、意見交換会を行いました。案として、小学校、中学校ともに、令和9年4月、因北小中学校へ学校再編する案を提示させていただきました。

今後の方向性（案）の理由として、「中学校の学校再編は、生徒の教育環境を充実させるためにも、早期に再編することが望ましいと考えられるが、中学校1年生の保護者の思いを大切にしたい再編年度を考える必要があるのではないか。」「小学校の学校再編も、在校児童数、複式学級が毎年ある状態や保護者の早期再編を求める声もあるため、中学校と同時期に再編する方が良いのではないか。」と考えました。

意見交換会では多くの意見をいただきましたが、主な意見として、「学校統合は、教育委員会で決めていただきたい。決めるのは、保護者や地域ではない。私たちではないことを確認したい。」「小学校3年生以下が因北小学校へ統合となる。当事者となる保護者や児童を重視して説明をしてほしい。」「重井小中学校と因北小中学校が統合する場合には、新設校にしてほしい。新しい校歌、校章を作ることが町民の願いである。統合か新設かの説明次第でかなり印象が変わってくる。」「どんな学校を創るのかということをしかりと示してほしい。尾道みなと小中学校と同じ熱量を出して新しい学校を創ってほしい。」といったようなご意見をいただきました。

次に、因北中学校区でのこれまでの取組についてです。

重井小中学校の学校再編について、因北中学校区での取組状況ですが、小中学校のPTA役員の皆様、因北地区5区長会長の皆様に説明をさせていただきました。また、就学前施設には、この度提案しております学校再編について、説明させていただきました。

以上のような取組を経て、教育委員会として検討した結果を改めて説明いたします。

重井小中学校と因北小中学校の再編年度は、令和9年度、令和9年4月とします。学校施設は因北小学校、因北中学校とします。学校再編時にあわせて、令和9年度から因北小学校と因北中学校を小中一貫教育校とします。

2 小中一貫教育校について

次に、小中一貫教育校についてご説明いたします。資料3をご覧ください。

小中一貫教育校は、市内小中学校の教育環境や教育内容の充実を図っていく上でのモデルとなり、他の中学校区と切磋琢磨しながら、尾道全体の教育の質の向上を目指す学校です。尾道市内2番目となる小中一貫教育校で新たな学びを創造し、尾道スタンダードとして市内へ発信していきます。

これまで、尾道市立学校では、中学校区共通の目指す子ども像や育てたい資質・能力を設定し、教職員による連携や研修を通して、9年間を一体的に捉えた教育活動の展開を図ってきております。令和7年4月に開校する尾道みなと中学校区、尾道みなと中学校、尾道みなと小学校、山波小学校は、これまで取り組んできた小中連携教育を発展させ、9年間の連続したカリキュラムで、教育内容の充実を図り、中学校の卒業時を見据えて、子どもたちの資質能力を育成していく小中一貫教育校となります。この重井・因北中学校区の学校再編においても、新たな中学校区を小中一貫教育校として、子どもたちへの教育の充実を目指し、その取組を市内に発信・普及していきたいと考えております。

小中一貫教育校についてももう少し具体的に説明いたします。

小中一貫教育校は因北小学校、因北中学校の2つの学校からなり、それぞれの学校に校長が配置され、教員組織があります。現在、小学校と中学校は、それぞれが学校教育目標や目指す子ども像を設定し、6年間または3年間の教育課程、カリキュラムを編成して、教育活動を行っていますが、小中一貫教育校では、小学校と中学校が共通の学校教育目標や目指す子ども像のもと、義務教育9年間を通した系統的な教育課程を編成します。このことにより、これまで以上に魅力的で子どもたちに力を付けることのできる教育が可能になると考えています。

また、教育研究の研究主題や生徒指導規程等、学校運営上必要な事項の多くが小学校と中学校で共通となるため、授業や生徒指導において、教職員が共通の指導方法で9年間、児童生徒に対応することが可能となり、子どもたちにとっても、小学校から中学校へスムーズに接続することができると考えております。

2-1 教育内容について

金子教育指導
課長

次に、2-1 教育内容について説明いたします。もう一度資料3をご覧ください。

小中一貫教育校は他の中学校区と切磋琢磨しながら、尾道全体の教育の質の向上を目指す学校です。目指す子ども像は、「郷土を愛し、心豊

かにたくましく生きる子ども」と考えています。ここには「子どもたちが尾道、因島で育ち学んでよかったと誇りに思い、自分の可能性に挑戦し、豊かな人生を切り拓いて欲しい」という願いを込めています。

15歳の生徒に身に付けさせたい力は、広島県教育委員会が、自己実現を図っていくための基盤を、義務教育段階で培っていくために設定している力と同様、「自己を認識し、人生を選択し、表現できる力」を育みたいと考えています。

育てたい資質・能力は学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性」等、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」等と考えています。これは学習指導要領上示されている資質・能力であり、尾道教育総合推進計画の中でも、尾道の子どもたちに育成すべき資質・能力として掲げているものです。小中一貫教育においても、これらの3つの力をバランスよく育てていくことが大切だと考えています。

このような子どもたちを9年間を通して育成するために、コミュニティ・スクール化、小学校に専科教員の配置、これまでと同様に、中学校に引き続き不登校支援のためのSSRというスペシャルサポートルームの設置、小学校に通級指導教室の設置、新たにALTの常駐化、学校司書の配置、スクールソーシャルワーカーの常駐化等を行い、教育環境の充実に力を注いでいきます。

具体的な教育内容について、もう少し詳しくご説明します。先ほどお伝えした、目指す子ども像や育てたい資質・能力を、小中9年間の一体的な学びで実現させていくためには、これまで各学校が培ってきた学びを大切にしながら、新しい学校の特色を出していくことのできる教育内容を創っていくことが大切であると考えています。

尾道市では、今年度から、「グローバル」「ローカル」「尾道らしさ」を推進する事業を進めています。小中一貫教育校では、尾道、因島らしさを土台として、「グローバルな学び、世界を意識した学び」と、「ローカルな学び、尾道、因島という地域を活かした学び」、これを組み合わせる尾道、因島らしさのある9年間の教育内容を創造し、子どもたちに「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」の育成を図っていきます。

まず、「知」確かな学力では、英語教育を充実させ、コミュニケーション能力や言語能力をしっかりと育成します。そのために、中学校へALTを常駐させ、中学校での英語教育の充実を図るとともに、小学校へも定期的に派遣できる環境づくりを行いたいと考えています。

また、高学年、一部中学年への教科担任制の導入により、小学校の学級担任制から中学校の教科担任制へスムーズな移行を行い、いわゆる「中1ギャップ」の緩和や教員の専門性を活かした質の高い授業により、学力の向上を目指したいと考えています。

今年度、教科担任制の状況は、重井小学校では、理科5年生・6年生、図画工作1年生から6年生、家庭科5年生・6年生。因北小学校では、算数5年生・6年生、理科3年生から6年生となっています。

再編後の小学校では、因北小学校で行われている教科担任制加配教員による授業や、先進的に取り組んでいる学校の担任同士の交換授業を取り入れる等工夫をすることで、できるだけ多くの教科を教科担任制にしたいと考えています。

さらに、ICT機器を積極的に活用した授業や家庭学習を行い、情報活用能力を育成します。以上のような取組を小中一体となって9年間の学びの連続性を意識して取り組むことで、子どもたちの確かな学力の育成を目指します。

「徳」豊かな心では、ふるさと学習の学びを通して、郷土を愛する心を育てます。道徳教育や特別活動を充実させ、体験や経験を通して、人を思いやる心を育てます。児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、カウンセリング体制を充実します。

重井小学校は創立149年、因北小学校は創立57年、重井中学校・因北中学校は創立77年の歴史があります。これまで培ってきた学校文化や伝統を、ふるさと学習や道徳教育を中心として、学校教育全体で受け継ぎ、スクールプライド、学校への愛着や誇りを醸成していきたいと考えています。

ふるさと学習は、総合的な学習の時間を中心に行うこととなります。中学校区で目指す資質・能力を育むために、2中学校区の因島の文化や先人から学ぶ教育内容が、現在の中学校区を越えて展開できます。また、現在、各小学校で行われている「ふるさと因島」の人、伝統、環境、産業、歴史等を扱った、例えば、村上勘兵衛、本因坊秀策、久保田権四郎、スイカや除虫菊、五百羅漢等の地域の学習材を扱った教育活動を取り入れ、中学校での職場体験学習や進路学習につなげ、一人一人の進路実現や持続可能な社会の実現に向けて、「因島からの提言」をするといった社会へ参画する態度の育成を図ります。現在、各小中学校で実施されている総合的な学習の時間の教育内容を、さらに広がりをもった教育内容になるよう、9年間を通して、系統的に地域の学習材を再構成し、取り組んでいきたいと考えております。

また、カウンセリング体制についてですが、今年度、重井中学校区・因北中学校区ともに、スクールカウンセラーを中学校に配置し、中学校区の小学校へも月1回派遣をしています。また、因北中学校には不登校生徒等への支援を目的としたスペシャルサポートルームを設置し、担当教員を1名配置しています。

再編後は、現在の児童生徒支援体制を継続し、中学校を基本として、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置します。また、学校統合加配という、児童生徒が再編後の学習環境に早く慣れるように、授業の中で支援するための教員を配置するとともに、SSRを引き続き設置等により、不登校児童生徒を支援するための環境も含め、児童生徒一人一人の健やかな成長を育むための支援体制の充実を図っていきたいと考えています。

「体」健やかな体では、運動時間を増やす取組を充実させ、体を動かす習慣を定着させます。食育や情報モラル教育等を充実させ、望ましい食習慣や基本的な生活習慣の確立を目指し、健康で活力のある児童生徒を育成します。

なお、食育の充実についてですが、因北小学校は、栄養教諭配置校となっています。現在、因北小学校の敷地内に因島学校給食共同調理場を建設中であり、令和7年度から重井中学校、因北中学校へも給食の提供が始まります。小中学校ともに同じメニューでの提供となりますので、学校給食を中心とした食育指導も、栄養教諭を中心に9年間を系統的に実施することが可能となります。

また、部活動についてですが、今年度、重井中学校には、陸上競技、ソフトテニス、卓球、文化科学部があり、因北中学校には、陸上競技、軟式野球、サッカー、ソフトテニス、卓球、女子バスケットボール、女子バレーボール、吹奏楽、文化部があります。

再編後はスポーツ、音楽、文化、地域の特色を活かした太鼓・囲碁等、子どもたちの興味・関心に応じた選択肢のある部活動を再編成し、活性化を図ります。

「信頼」地域に開かれた学校づくりでは、小中一貫教育校で9年間の系統的な教育活動を編成し、小中一貫した教育を進めます。保護者や地域の力を学校運営に活かす中学校区が一体となったコミュニティ・スクールを導入し、魅力ある学校の実現を図ります。

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら

ら、子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。現在、尾道市では、半数の中学校区がコミュニティ・スクールとなっており、因北中学校区は今年度からコミュニティ・スクールとなっています。

来年度は重井中学校区をコミュニティ・スクールとする予定としており、令和9年度にはコミュニティ・スクールとして、スムーズな移行ができるよう環境を整えてまいります。コミュニティ・スクールにすることで、地域の方が授業のゲストティーチャー、児童生徒への学習支援、学校と地域の合同行事等、地域の方が学校へ参画しやすい体制づくりを行い、児童生徒の学習や体験活動の充実を図ることが期待できます。

現在の2中学校2小学校の地域・学校・人的な資源を1中学校1小学校に集中的に運用することができるようになり、より一層子どもたちの教育環境が充実し、学力の向上や健やかな成長を図ることができると考えています。

スライドは、現在の重井小学校、因北小学校、重井中学校、因北中学校の学校経営の方針をまとめている学校経営構想図です。

資料4-1、4-2、5-1、5-2も併せてご覧ください。

2つの小学校と2つの中学校がそれぞれ学校創立から培っていた、たくさんの特徴等を意識し、小中一貫教育校として融合し、9年間の学びの系統性を整理し、新たな教育内容を創造していきたいと考えています。

そして、小中の教職員が、同じベクトルで一貫した教育内容や指導をすることで、小学校段階で身に付けた資質・能力を、中学校でさらに定着・深化させ、子どもたちの確かな進路実現・自己実現を目指していきたいと考えています。

この画面は参考になりますが、小中一貫教育校で児童生徒が成長した姿を発表するイメージ例です。左側は、小学校での学びの集大成として、総合的な学習の時間等で学んだ「ふるさと学習」の学びを発表する場のイメージです。保護者や地域の方と、子どもたちの成長を喜び合いたいと考えています。右側は、中学校で、小中9年間の学びの集大成としての「因島からの政策提言発表会」のイメージです。夢の実現や社会的自立に向け、地域に貢献することのできる生徒の姿を、保護者や地域の方に見ていただきたいと考えています。このような因北中学校区小中一貫教育校の学びを、市内全体に発信・普及してまいります。

2-2 小中一貫教育校（因北小中学校）の施設について

このスライドは、重井小中学校の保護者、地域の方に、因北小学校の

<p>田地域教育課長</p>	<p>歴史や施設について説明するために作成したものです。</p> <p>ここにおられる皆さんはよくご存知のことと思いますが、お聞きいただければと思います。</p> <p>小学校は因北小学校の施設を利用します。因北小学校は昭和42年に中庄小学校、外浦小学校及び鏡浦小学校を再編して、因島市立因北小学校が開校いたしました。その後、平成18年、尾道市との合併に伴い、尾道市立因北小学校となり、平成19年に、尾道市立大浜小学校を再編し、現在に至っています。</p> <p>こちらは、因北小学校の施設の配置図です。敷地面積約2万㎡の中に1号棟、2号棟及び3号棟からなる教室棟と体育館、プールがあります。教室棟及び体育館は、平成23年から平成27年にかけて、それぞれ耐震補強工事を行っています。耐震性があり、重井の児童が増えても増築の必要がないことから、再編後も既存の校舎を活用します。</p> <p>校舎は、築50年以上が経過していることもあり、修繕を必要とする箇所も増えておりますので、改修については、現在検討を行っています。</p> <p>また、建設中の因島学校給食共同調理場については、工事期間中ご迷惑をおかけしましたが、12月末には完成を迎える予定となっており、新年度の本格稼働に向けて準備を進めてまいります。</p> <p>スライドにありますように、調理場建設に伴って、昨年度、新たに6基の遊具をリニューアルしており、子どもたちには好評であると聞いております。</p> <p>続いて、中学校の施設の紹介です。</p> <p>中学校は、因北中学校の施設を利用します。因北中学校は、昭和22年に御調郡中庄村立中庄中学校から始まりました。その後、昭和27年に、御調郡学校組合立因北中学校、昭和28年に因島市制に伴い、因島市立因北中学校と校名を変更しました。そして、平成18年に尾道市との合併に伴い、現在の尾道市立因北中学校になりました。</p> <p>こちらは因北中学校の施設の配置図です。敷地面積15,632㎡の中に3階建て校舎1棟と体育館があります。平成18年に校舎、平成22年に体育館の耐震補強工事を行っています。小学校と同様に、校舎には耐震性があり、重井中学校の生徒が加わっても、学級数が増えないことから、再編後も既存の校舎を活用します。</p> <p>校舎は、築40年以上が経過していることもあり、修繕を必要とする箇所も増えておりますので、改修については、現在検討を行っています。</p> <p>また、課題となっております屋外トイレでございますが、現在、新築工事に着手しており、今年度中の完成を見込んでいます。</p>
----------------	---

<p>安保学校経営 企画課長</p>	<p>施設整備については、尾道、因島らしさのある9年間の学びの創造に向けて、教育内容の充実を図るために、教育環境の整備として、主に次の2点を考えています。1点目は、ワーキングスペースによる学び合いの充実です。学級活動だけではなく、異学年や縦割り活動を仕組みやすくなり、個や集団による学び、グループで話し合ったり、プレゼンテーションをしたりする等、より学習の幅を広げることが可能になります。</p> <p>2点目は、専科教室等による教科指導の充実です。例えば、英語教室として活用する場合、教室全体の掲示物や座席配置等を工夫し、普通教室で学ぶより、英語を学ぶ環境を充実させることができます。そのため、現在の図書室や研修室等を活用し、多様な学習活動が展開できるワーキングスペースの設置を検討するとともに、空き教室を活用した専科教室等を創出していきたいと考えています。</p> <p>2-3 通学路の安全対策と通学対策について</p> <p>次に、通学路の安全対策と通学対策についてです。</p> <p>通学路の安全対策については、子どもたちの安全・安心な通学という面で、非常に重要であると考えています。尾道市では通学路交通安全プログラムにより、通学路の安全対策を実施しています。これまでの、この地域の通学路の安全対策として、重井小学校では水路側にガードパイプの設置やブルーラインの引き直しの対策を実施しています。因北小学校では、横断歩道、停止線の引き直しや注意喚起標示、交差点マークの施工を実施しています。</p> <p>通学道路の安全対策については、今後、小中一貫教育校準備委員会(仮称)の中で、学校・保護者・地域・道路管理者・警察・教育委員会等が合同で通学路候補となる道路を点検します。合同点検の中で抽出された危険箇所については、尾道市通学路交通安全プログラムの中に組み入れ、対策を検討し、改善を図っていきます。</p> <p>次に、通学対策についてです。本市では通学対策の対象となる児童生徒の基準として、通学距離が小学校概ね3km以上、中学校概ね5km以上の場合としています。通学対策の実際として、通常利用すると考えられる通学路を路線バスが運行している場合は、路線バスの定期券を支給しています。路線バスでの通学が困難であると認められる場合には、スクールバス等の運行を実施しています。因北小学校の通学対策については、現状と変わりなく、継続していくことを考えております。</p> <p>中学校の自転車通学では、重井中学校は、通学距離に関係なく、希望者に自転車通学を許可しています。因北中学校は通学範囲、通学できる地区を設けて自転車通学を許可しています。市内全体の状況や現在の重</p>
------------------------	--

井小中学校、因北小中学校の現状を踏まえた上で、小中一貫教育校準備委員会（仮称）の中で通学対策の在り方、自転車通学も含めて検討していくこととなります。

3 今後のスケジュール（案）について

次に、3 今後のスケジュール（案）についてです。ここに提示しておりますのは、大まかな今後のスケジュールになります。令和7年度からは学校再編が決定したと仮定してのスケジュールとなります。

令和6年度は、重井中学校区・因北中学校区の保護者説明会・地域説明会をそれぞれ実施していきます。重井小中学校の保護者からは、「学校選択制度の募集までには方向性を示して欲しい。」との要望を受けておりますので、学校選択制度募集要項を発送する10月初旬頃を意識した取組を進めております。

令和7年度は、因北中学校区小中一貫教育校準備委員会（仮称）を立ち上げ、教育内容、通学対策等を協議していくとともに、児童生徒間交流を実施していきたいと考えております。

また重井小中学校の閉校記念事業実行委員会の立ち上げについても検討していき、令和8年度末には、重井小中学校閉校式、閉校記念事業を実施できればと考えています。

そして、令和9年度から因北中学校区小中一貫教育校をスタートしたいと考えています。保護者の方が心配されている学校再編時の教職員配置についても、児童生徒が安心して学校の環境に慣れることができるよう配慮してまいります。「子どもたちの未来を拓く」ために、保護者・地域・学校・教育委員会で力を合わせ、小中一貫教育校による新たな学びを創造してまいります。

以上で重井小中学校と因北小中学校の学校再編についての説明を終わります。

（重井小中学校保護者説明会・重井中学校区地域説明会で出た意見の紹介）

小田因島瀬戸
田地域教育課
地域教育係長

次に、重井小中学校保護者説明会、重井中学校区地域説明会で出た意見を紹介します。

重井小中学校保護者説明会を、8月21日に行いました。説明は本日説明したプレゼンのスライド8、因北中学校、就学前施設への取組以外は、同様の内容で行っています。

いただいた因北小中学校に関係する主な意見や要望ですが、「3年後に統合された時点で、今日説明された教育内容は、全てできる状態にな

っているのか。」「重井小学校に来年度入学予定の13人が、全員因北小学校へ行く可能性、また来年度、重井小学校の1年生がゼロになる可能性はあるのか。」「学校選択制度について、因北小学校の受け入れ枠が10人ですが、13人希望したらどのように対応するのか。」というような意見や要望をいただきました。

重井中学校区地域説明会は9月18日に行いました。説明は、重井小中学校保護者対象説明会と同様の内容で行っています。

いただいた主な意見や要望は、「学校名、校歌、校章を新しくし、新設校にしてほしい。」というものでした。

「現状のままでいくと、吸収合併みたいな形になる。子どもたちは重井町からいなくなる。重井は一層寂れる。我々も重井町から子どもがいなくなって、完全に統合されたのだというイメージが後々までつきまとう。」

「重井町の行事として、文化祭やお祭りがある。統合した場合、子どもたちは、中庄の文化祭やお祭りに作品を出品・出展したり、参加したりすると思う。重井町の行事に対しては、子どもたちが参加しなくなるのではないかという心配がある。そうするとますます重井町が廃れていく。寂れていく。寂しい町になるという思いもある。」

「町内単独で小中学校を運営していたという歴史の中で、その重井町に小中学校がなくなるということの寂しさは、大変辛い思いをしている。重井中学校と因北中学校を『再編』という言葉が書かれていたが、小中一貫校としての再編はあっても、中身は吸収統合で、重井小中学校のみの再編であるという感じがする。因北小中学校も『再編』という言葉で充てて、新たな小中学校を立ち上げてほしい。新しい学校に対しては協力を惜しまない。」

「統合して新たな学校に再編するのであれば、重井の子どもたちが、因北小学校、因北中学校に通い、因北小学校の校歌を歌うというのは、重井の子どもたちや保護者は自分たちの学校という意識が薄れ、重井住民も同様で、学校との関係や協力体制も弱体するのではないかとと思われる。要望として、新しい学校になるのであれば、新たな学校名、新たな校歌を創っていただき、新しい学校としていただければと思う。」

「子どもたちも、実際に新しい学校になると、今までの因北小中学校に行くのとでは、気持ち的に全然違うと思う。地域住民も新しい学校だから、もっと協力できることはないのかと考える。因北小中学校の子どもたちも、重井小中学校の子どもたちと協力して、新しい学校を自分たちで創り上げていく気持ちをもって、頑張れるのではないか。」

	<p>「教育委員会が重井小中と因北小中を統合して、校名を『因島北』にしたいという形で積極的に、『因島北小学校、中学校』を提示していけば、因北小中学校の保護者も、考えてくださるのではないかと思います。そういう部分は教育委員会が、校名のことをどう考えるか、姿勢によると思う。」というような意見や要望をいただきました。以上紹介といたします。</p> <p>(質疑応答)</p> <p>司会者 続いて質疑応答を行います。ご質問がある方は挙手をお願いします。</p> <p>質問者 A 地域で民生委員児童委員をしている者です。3点ほど質問をしたいと思いますので。その前に丁寧なご説明をありがとうございました。</p> <p>まず、統合の話って、随分前から地域ではあったんですけど、今の高校生ぐらいの子が小学校の時からあったと思うんです。特に重井は少ないから部活の選択肢も少ないし、それを払拭するために、自由選択制を使って、他所の学校へ通学している子は結構いたりするんですが、ここへ来てやっと本格的に動き出したんですけど、ここまで実際に動き出すのが遅くなったのはなぜなのか。先ほどの最後の説明で、地域の反対の声というか、重井とかでそういうのがあったんですけど、具体的に、ここまで実際に遅れてしまった、遅くなった感じは否めないんですけど、それはなぜなのかということが1点。</p> <p>それから、2点目は、イメージとして、小中一貫校というと、同じ敷地内に小学校の校舎と中学校の校舎があって、中学校の先生も日常的に児童の姿を見る。小学校の先生も日常的に中学生徒を見るというのが、なんか、私の中ではイメージとしてあるんですけど、まあ、近いと言えば近いんですけど、その、例えば、中学校の先生が小学校へ行くとなると、靴を履き替えて、流石に走っては行かないんで、車で行くとか、そういう移動にかかる時間とか、例えば授業の交流を定期的にするとなると、先生方が片方の学校が不在になる時間とか、日とかがあると思うんです。もちろん先生方も、病気やけがでお休みされたり、出張に行かれたりして不在になることがあると思うんですけど、小中一貫で交流をするとなると、そういう時間増えてくると思うんですね。そういう時の配慮とか、人配的な加配のこととか書いてありましたけど、そういうのがどうなるのかなというのが2点目と。</p> <p>最後に、民生委員児童委員で、4か月健診の子ども数がすごく少なくなっているということと、将来的に、因島に小中学校が一つになる可能性っていうのは、どのように考えておられるのかなっていうこともお</p>
--	---

<p>小柳学校教育 部長</p>	<p>聞きしたいんですが、以上3点よろしくお願ひします。</p> <p>3つのご質問をいただきました。</p> <p>重井の学校再編というのは、多分、地域の中での噂というのは、相当前からあったというふうに思ひます。私たちも、ここの画面に出てきた平成23年12月に策定した学校再編計画では、中期計画ということで、令和8年度末までが中期計画なんですけれども、その中に位置付けておりました。</p> <p>私たちが正式に地域の方にお話をさせていただきましたのは、令和5年の12月です。その前に重井の保護者の方から、やっぱりこの状況を見て、「教育委員会が動いてくれないか。」というお話を、令和元年頃からいただいております、重井の保護者の方とは、一時期コロナの時期で、お話しできない時期もあったんですけれども、継続してお話しをさせていただいております。やっぱり賛否両論、地域の中でも様々な、保護者の方がですね、やっぱり地域の中でも様々な声がありまして、私たちが最終的に決断がなかなかできない状況にあったんですけれども、流石に今、子どもたちの人数の推移を見ていきますと、重井小学校には5、6年生が複式学級になっています。重井中学校の全校生徒は、今年25人になっています。そういった状況を見ますと、本当に子どもたちにとっても、学ぶ環境として良いのかどうかという議論を私たちもさせていただきまして、これは早急に取り組まないといけないということになりまして、昨年12月から、本格的に取り組みをさせていただいているところでございます。</p> <p>それから2点目なんですけれども、この小中一貫教育校というのは、施設の一体型、例えば先ほど言われました、小学校と中学校が同じ敷地の中にあるパターンと、分離型、今の小学校、中学校、別々の場所にありますけれども、そういった2つのケースが考えられます。</p> <p>例えば義務教育学校というのは、小学校中学校9年間、同じ施設の中で学ぶということなんですけれども、この小中一貫教育校というのは、学びの連続性はあるけれども、必ずしも学校が同じ敷地にあるものでもないです。全国的にも、施設一体型の学校の方が少ない状況があります。ですが、子どもたちの学びを繋いでいくという面では、大変メリットがあるということで、私たちは、可能な限り、この小中一貫教育校を進めていきたいということで、まずは尾道みなと中学校区で、来年度から小中一貫教育校になるんですけれども、続いて、因北中学校区で市内2番目の一貫校をしていきたいというふうに思っています。</p> <p>それで、人的な加配等ですね、そんなに多く付くわけではないんです</p>
----------------------	---

けれども、いくらか中学校の教員を、小学校の授業をしていただいたりということを考えてはおりますが、やっぱり、教員の問題もありますので、なかなかそういう、たくさんの乗り入れ授業というのはそこまではできないというふうに思っておりますが、小学校は小学校の良さを活かして、教科担任制等、新たな取組にもチャレンジしていきたいと思っております。

3点目なんですけれども、令和5年度因島の中で生まれているお子さん40人ぐらいだったというふうに記憶しております。ですから、因島だけではなくて、尾道全体で急激に子どもが少なくなっています。例えば、今の中学校2年生1009人いるんですけれども、令和5年度に生まれたお子さん、市内全体でいうと514人になっています。約10年ちょっとで2分の1になっているという状況で、これは因島だけではなくて、尾道市内全体の今後の学校の在り方を考えていかなければいけないと思っております。今、因島小中1つになる可能性があるのかということでしたけれども、まだそこまでのことは考えておりませんが、10年後、20年後、というもう少し長いスパンで見ますと、やはり、議論をしていかないといけない時が来るのではないかと思います。例えば、中学校の部活動なんかで成立しなくなったり、子どもたちの学習集団として、本当にこれで学び合いができる環境なのかといった視点。あと、そうはいつても、因島を1つにすると通学エリアが広がりますので、そういった子どもの負担の面でありますとか、様々な面を考えていかなければいけないというふうに思っております。今日、お話をさせていただいたのは、まずは重井小中学校の子どもたちの教育環境を、なんとかして充実させていきたいということで、まずは提案をさせていただいたところでございます。

司会者

続いて質問のある方、挙手をお願いします。

質問者B

失礼します。区長会でお世話になっております〇〇と申しますが、区長会の中で意見がまだまとまってないんですね、今日の提案を聞いて初めて、こういう問題があるんだよということで、具体的に進めていこうかなということございまして、基本的には、統合の時期については教育委員会の方から出ている状況でいいと思いますが、いろいろな考えがあろうかと思えます。その問題を、その3年か2年かの間に解決できるのかというのが1つの心配でありまして、例えば統合で、学校名を1つ変えるにしても、制服の問題、体操服の問題、そういうのが、保護者、これから迎えるべく保護者の負担になるんじゃないかということが懸

念されまして、若い人が一生懸命、生徒児童のために頑張っているのに、それ以上の負担を強いてはちょっとかわいそうだなという気がしますので、あえて校名を変えるということについては、賛成できないと思います。

それと中学校の方で、設備については、あまり大きな改造はしたくないというご提案でしたけれども、中学校の方からいろいろ私の方に要望が出ておまして、これは正式に来とるわけではないんですけれども、うちのポストへ誰かが入れたんだと思いますけど、因北中学校のことについての設備の問題が入っております。「洋式トイレへ改良してほしい。」「エレベーターを設置してほしい。」「残る特別教室にも空調設備を設置してほしい。」今のところ3点なんですけれども、小学校については今のところ承ってはいないんですけれども、そういうことについて、どういうふうに考えておられるのかお尋ねします。

1つ目の学校名については、ちょっと負担がかかるのではないかと、保護者にですね。今のままでいいんじゃないかというふうに思われます。これ以上若い人に負の遺産を残したくないという住民の意見でございます。

今のスケジュールで、粛々と予定を立てて、今まで考えておられたということですので、そのとおりで進めていただきたいと思います。

個々については、学校名について、重井の懇談会の意見書を入手しましたが、「統合後の学校名については、重井町・中庄町及び大浜町、外浦町、鏡浦町の保護者や地域住民との合意形成の下に、決定していただきたい。」と書いておりますので、重井のおっしゃることは分かりますけれども、合意形成の下で、校名を今までどおりにするのか、重井が言ったとおりに変えるのかというのは皆さんの意見を聞いて、アンケートをとるか、何らかの方法で、合意形成の下ということで決定していただければというふうに思います。以上です。

小柳学校教育
部長

まず1点目の学校名についてでございますけれども、私たち、重井の地域説明会に行った時に、ほぼ、ほとんどの時間が、学校名をなんとか変えてもらえないだろうかという意見をいただきました。その時にお答えしているのは、当然、重井だけの意見で、それが決まっていくわけでは当然ありません。重井の中には、もちろん小田浦地域もありますし、因北の様々な、中庄それから西浦、鏡浦、大浜、外浦とあるわけで、それらの地域の方の皆さんのご意見をお伺いして、校名を変えていこうという皆さんの合意形成といいますか、その雰囲気醸成されないと、それは皆さん納得して校名を変えるということにはならないのではない

でしょうかというお話しをさせていただいております。ですから、こういうふうに今、保護者説明会とか地域説明会をさせていただいて、皆様方のご意見をお聞かせいただく中で、私たち持ち帰って最終的には教育委員会が責任を持って決めていきたいというふうに思っています。

私たちが思っているのは、保護者負担とか、様々なお考えあるかと思えますけれども、やはりまず第一は、重井の子どもたちの教育環境を充実させていく、それとともに、因北小中学校の子どもたちの学びを充実する、そこに全力を傾けていきたいという趣旨で今回提案させていただいております。ここを重視して、今後も検討していきたいと思っておりますが、皆様方のご意見をお伺いする中で、校名の方は、最終的に決めていきたいというふうに思っております。

榎原因島瀬戸
田地域教育課
長

施設のご質問といえますか、ご要望をいただいておりますので、お答をさせていただきます。

まず1点目、洋式トイレを増やしてほしいという要望、これは学校の方からもいただいております。今、小中学校ともに、全市内で取組を進めておりますが、因北中学校が特別、洋式トイレが少ないというような現状ではないというふうに捉えております。ですが、やはり今、尾道が目指してやってまいりました、50%を超える洋式化率はできているんですけれども、まだまだ少ないというふうに考えておりますので、これから洋式化をもっともっと増設できるように、取組を進めたいと思えます。再編ということですので、そこはできるだけ優先度を上げて、取組を進めていきたいというふうに考えております。

それでエレベーター、これについては、やはり、まだまだエレベーターがある学校は少ないので、新築とか大規模改修とかということがないと、なかなか、今ある校舎にエレベーターを付けるということは現状は難しいかなと思っております。中学校をずっとこれからも活用して、大規模改修するとかという判断ができた時には、そういったことも、これから必要になってくるかなと思っておりますが、現在のところは、ちょっと検討はされておりません。

空調ですね、エアコンについては、数年前に特別教室の方を、中学校については、美術室と理科室、こちらの方に設置をさせていただいております。まだ、調理室とか家庭科室とかその他特別教室、中学校はたくさんあるんですけれども、技術室とかですね、その辺りには設置ができておりません。これはもう市内中学校、因島南もそうですし、重井もそうです、瀬戸田もそうなんですけど、どこの中学校も、統一的な設置でいっておりますので、今、ちょっと、特別教室、残りの部分について、

	<p>計画の方はすぐできるということをちょっとこの場では言えないんですけども、全国的な取組等を見ながら、また、検討していきたいというふうに考えております。今すぐには難しいかなと思っておりますので、しっかりとその辺りは検討していきたいと思っております。以上です。</p>
<p>司会者</p>	<p>続いて、隣の方。</p>
<p>質問者C</p>	<p>すみません。私、もう子どもも、皆子離れして、全く外野なんですけど、先ほど、ちょっと聞いてますと、子どもが因島は40人しか生まれなかったと。この子らって、もうあと7、8年したら小学校へ入ってくるんですよね。まだ、全然そういうことは考えてないと、さっき部長さんはおっしゃいましたけれども、それってちょっと甘いんじゃないんですか。また、同じことをするんじゃないんですか。このままいったら。でね、そういう現状を見たら、校歌を変えるとか、校章を変えるとか、学校の名前を変えるとか、因北でどうのこうのという段じゃないですよ。なんで、そこらをもうちょっと、教育長さんしっかり考えて、先のことを。ぱっと決めていただきたいですね、本当。私は外野なんですけど、そういうふうに感じました。何かご返答をいただけたら嬉しいんですがねえ。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>子どもの数を考えた時に、将来の展望を、今は教育委員会の中で、因島の学校をどうしていくかというのは、これから真剣に考えていかなきゃいけないというふうに思っているんですけども、ただ、難しいのはですね、やはり学校は地域の、非常に皆さんの宝といいますか、財産だというふうに思いますので、それを簡単に無くすというのは、これは地域の方や保護者の方、卒業生の方からすると、大変辛い、寂しい、そういったものだというふうに思います。ですので、そういった心情にも、やはり寄り添いながら、どういうふうにしていくのがいいのかというご意見をお伺いしながら、いつ再編するのがいいのか、どういう形で再編するのがいいのかというのは、やはり、勝手に教育委員会が決めるということは、やはり望ましいことではないというふうに思っております、それぞれ地域や保護者の皆様、そして、卒業生の皆様、いろんな方のご意見をいただいて、やはり考えていかなければいけない、そういう重要な決定だと思いますので、そういうふうには私は考えておりますので、おっしゃることは大変良く分かります。子どもがすごく少なくなってきた、将来のことを考えると、早く学校再編していくべきじゃないか</p>

	<p>というご意見はごもっともだと思います。それは、私の中にはもちろん、そういった思いもあるわけですが、先ほど申しましたように、ただ、その思いだけで突っ走ることはできませんので、いろんな方のご意見を聞きながら、適切な判断をしていかなきゃいけない、そういうふうに思っております。</p>
<p>質問者C</p>	<p>ありがとうございます。私は、ばりばり郷土愛が強い人間でして、重井の方がそう考えるのは、そりゃものすごいよく分かります。ですけどね、きょろきょろ、あっちの顔を立て、こっちの顔を立てするから、さっき、民生委員の方もおっしゃられましたけど、この統合の問題は平成23年ぐらいから、さっき話が出ていたという話で、もう13年も経ってるんですよ。で、今から13年経ったらね、因島で40人生まれようだった子どもが、30人になっとるか、20人になっとるか、もう分からん時代なんですよ。ほんまにもう尻に火が付いて、やってもらわんといかん話じゃ思いますけどね。そりゃ、地域の人顔も立てにやいかん、いろいろ辛い立場というのはよう分かるんですけど、乗り遅れないように、しっかり頑張っていたいただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>司会者</p>	<p>他に質問がある方は挙手をお願いします。</p> <p>(質疑なし)</p>
<p>司会者</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日のご質問ご意見を参考に、今後の保護者や地域との説明会に活かしてまいります。</p> <p>以上で、本日の説明会を閉会いたします。地域の皆様、本日はどうもありがとうございました。</p> <p>(20:15 終了)</p>